



灯台

学 校 通 信

NO. 143

青森県立大間高等学校

未来を生きる大間高校生へ

校長 森 田 勝 博



新元号「令和」二年を迎えた今年(二〇二〇年)は、漫画「ドラえもん」が子ども向け雑誌に連載が始まり五十周年にあたるのだそうです。私が小学校に入学する一九七〇(昭和四十五年)年の一月号(発売は前年の十二月)の掲載が最初だったようです。以来五十年にわたり多くの子どもたちに読まれ、愛されています。一九七〇年は、日本では、高度経済成長の終わり頃。東京オリンピック(一九六四年)を経て国民総生産(GNP※経済指標としては現在国内総生産GDPを使用)が世界第二位となり(一九六八年)、経済大国を意識し始める頃です。大阪万博(一九七〇年三

月)九月開催※二〇二五年に再び「大阪・関西万博」が開催される)にみられるように、子ども心にはありますが、多くの「二十世紀少年」たちが、そして日本全体が、「未来」という言葉に経済的な豊かさとかをがれを持っていたような気がします。もちろん、一九七〇年の我が家には、冷蔵庫、洗濯機、自動車、電話(固定黒電話)などはありませんでした。そんな中で、未来の便利な生活を想像して描いた本や「ドラえもん」が連載された子ども向け雑誌を繰り返し読んだものです。今でも覚えているのが、「壁掛けテレビ」「持ち運び電話(携帯電話)」「腕時計型テレビ電話」「リニアモーターカー」「自動翻訳機」「自動運転自動車」「空飛ぶロケットマン(ロサンゼルスオリンピックの開会式で登場してびっくりしたなあ)」など。その当時はドラえもんの秘密道具としか思えないものでした。

では、これから五十年後の社会や生活はどうなっているのでしょうか？今は、かつて描いた未来の豊かな生活が信じられなくなってきたというようです。実際、人々が夢に見た二十一世紀になつてみると、東日本大震災、福島原発事故、増えてきた巨大自然災害とその背景にあると疑われる温暖化等の地球環境問題、人口減少や拡大し続ける貧富の格差など。増大する多様な社会問題に対して、科学技術、市場経済システム、社会保障や政治システムそのものに対する信頼が揺らいできています。そのうえ、急速にAI(人工知能)が発達し、それに伴い懸念される人権侵害や軍事利用、産業構造の変化や働き方変革など、将来への不安も増してきているようです。

しかし、それでも私は、未来は捨てたものではないと思っています。少なくとも、公害が大きな問題だった五十年前に比べて海や川はきれいになってきています。臓器移植やiPS細胞にみられるような再生医療の進歩。不治の病とされた「がん」も早期治療によって治る病気になりつつあります。ICT(情報通信技術)の進歩も日進月歩です。昔遊んだファミコンは、実は、月に行つたアポロの誘導コンピュータと性能が同程度で、スマートフォンは、それを上回るのだそうです。教育では、高校の進学率が現在約九十九%。大学への進学率が一九七〇年の約十七%から二〇一九年は約五十五%になっています。制度上いろいろ課題がありますが、も就学支援や奨学制度も拡充し、多くの若者が高等教育を受けられる時代になっています。

これから人生一〇〇年時代を迎え、なかには二十世紀まで生きる生徒もいるでしょう。人類が抱える問題はそう簡単には解決するものではありません。それでも、未来を創るのは我々人間です。未来を悲観したり、社会の変化に目を背けたりするのではなく、未来を信じ、たくましく生き抜いていってほしいと強く願っています。

「人の幸守り継ぐべし 高く明るく灯台は立つ」と校歌にあるように。



願い

一学年主任 田中章裕

月日が流れるのは早いもので、四月の入学式からもう一年が経とうとしています。二学年へと進級するまで、あと一ヵ月。みなさんにとってこの一年はどんな一年になりましたか。中学校から高校への環境の変化は、みなさんに多くの出会いを与え、多くの影響を与えたと思います。

私にとってもこの一年は学年主任を初めて務めることになった教員としての転機の年であり、主任として、また担任としてどのようにみなさんと接し、どう成長させるかということ、深く考えさせられました。みなさんにどうなってもらいたいかは、挙げればキリがないのですが、私は願いを一つに絞りました。

「大間高校での出会いを大切に、学年みんなが仲良くなってほしい。」

そして、それが叶うようにと願いを込めて、「挨拶を大切にすること」と「規則を守ること」が一学年の目標である、みなさんに伝えました。規律のある集団は、互いを尊重することができ、強い絆で結ばれた仲間になる。私はこう考えるからです。

目標のおかげか、それとも高校入学前から既に規範意識が身に付いていたのか、みなさんは私の期待に答えてくれています。身内最良かもしれませんが挨拶は一番元気があると思っていますし、規則も本当によく守ってくれています。人間関係のトラブルや、携帯電話の違反など、何も起きなかった訳ではありませんが、注意を素直に聞き入れて反省し、二度と同じ過ちを繰り返さなかったことは、とても嬉しく思っています。

さて、願いの話に戻ります。みなさんは全員が仲良くなることは可能だと思いますか。人間関係は単純ではないです。波長が合わない人がいることが仕方ない、そういう人とも表面上はうまくやることは大切だ。このような考えは間違っていないし、敵意を剥き出しにして人より精神的に大人であると思います。ただ、お互いが自分を変える意思を持てば、お互いを尊重できれば、全員が仲良くなれるのではないのでしょうか。私は、みなさんならできると信じています。私は学年の規律を整えます。仲違いしたときは仲裁に入ります。積極的に新しい人間関係を築いてみてください。



成功体験と失敗体験

二学年主任 佐々木順皓

ここ数年の間に生徒への接し方は大きく変わったと思います。その一つが褒める指導です。褒められることにより、周りから認められていると感じ、自己肯定感が生まれる。とても素晴らしいことだと思います。大人でも褒められると嬉しいので、生徒ならなお一層でしょう。よって、私を含めた教員・大人は褒め方を上達させなければいけないとも感じています。

また、タイトルにも挙げたように成功体験を積み重ね、ということも変化の一つだと思います。成功体験を重ねることで自信が生まれ、いろいろなことに挑戦するようになる。とても素晴らしいことだと思います。しかし、教育現場を見ると、用意された成功体験が多く、これって生徒の成長に繋がっているのかなと感じることがあります。例えば行事の際に、あれはダメ、これもダメ、と失敗させないように枠で囲って、大人が誘導して成功させる。これでいいの？これで生徒は何を学ぶの？それより、失敗体験を重ねる方が成長するんじゃないの？とたびたび思います。失敗する、一時、自信を失うかもしれない。だが、挑戦したことを教員が褒め、どうすれば失敗しなかったか、次はどのようにすればいいか、そして失敗を挽回するために今何をすべきか、という思考に生徒を誘導することが大事ではないのかなと思います。重複になりますが、失敗させないような教育では、先述した成長の機会を与えないことになると思います。生涯で、失敗をしない人は稀だと思ふので、失敗が許される今のこの成長は、将来への十分な備えになるはずだと思います。成功体験ばかり積み重ねてきた人は、社会に出て失敗してしまったとき、挽回するための行動が分からず、ドロップアウトしてしまうことも、極端かも知れませんが、あると思います。

来年度は高校三年生。あと一年は失敗が許されます。私の想いとしては、自分の力でいろいろなことに挑戦して下さい。成功したら自信になるし、失敗したら教員が成長へ導きます。そうやって、いろいろな事態に対応できる人間になってほしいと思います。最後に、挑戦して失敗することは、案外、嫌ではないものです。



一度きりの人生だから

三学年主任 本間貴士

三年生の生徒の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。高校生活を通して自己を成長させ、今まさに晴れの門出を共に迎えられることを、心から嬉しく思います。

入学時より人間的に大きく成長した皆さん、いよいよ社会に旅立つ時です。同時に、自身の夢や希望を叶えるためのスタート地点でもあります。今までは、家族や学校、仲間が皆さんを助け、守ってくれました。もしかしらは全てが自己責任になります。先生に指導されることも無く、課題も出されません。その代わり、自分で自分の課題を見つけ、解決していく姿勢が必要になります。不安も大きいかもしれませんが、この大間高校で過ごした三年間を持つてすれば、乗り越えられると信じています。

今後の人生の中で、住む場所や会う人、仕事や職業はその時々で変化していきます。環境に応じて、自分をうまく変化させながら、しなやかに対応すること、学び続けることが必要になります。高校生活で勉強は終わりはなく、学ぶことに対しては一生涯付き合わなければならぬのです。大人も皆、学び続けています。学ぼう。自分の小さな小さな実感を、学ぶ意志と意欲が湧いてくるのです。積極的にチャレンジすることで、自分の知らない世界を知ることができ、考え方が変わり、思考が深まり、価値観が変わり、自分のやりたいことが増えることで心が豊かになります。変化に対応しながら、成長し続けましょう。

二年生初めの学年集会で、二組担任の石倉千穂先生が「You only live once」という英語のフレーズを教えてくださいました。あなたの人生は一度きり。一度きりの人生だから、自分のやりたいことを精いっぱいやりぬ、というポジティブなメッセージです。高校生活で自分のやりたいことができましたか。これからは、自分のやりたいことにどんどんチャレンジして、夢や目標を達成してください。

保護者の皆様、お子さんの近くで接する機会を頂いた一人として、これからも更なる活躍と成長を願っています。



10月9日(水)、体育祭が行われました。天候が芳しくなく体育館での決行となり、中止となった競技もありましたが、全校生徒が仲間と協力しながら熱戦を繰り広げ、全力で楽しんでいました。



第45回体育祭

＜体育祭結果＞

総合優勝…31HR、準優勝…32HR、3位…11HR



10月30日(水)、生徒会役員選挙が行われました。投票前の立会演説会では、立候補者3名が、自分たちが目指す学校像について熱意あふれる演説をしてくれました。これから大間高校をより良いものにしていくため、一生懸命尽くしてくれることでしょう。



生徒会役員選挙

＜新生徒会役員＞

生徒会長…22HR 松本 陽向
生徒会副会長…22HR 熊谷 静奈、12HR 柴垣 銀次



11月12日(火)、職業人講話が行われました。講師として井上信平さんをお招きし、「挑戦することの大切さ」などをお話いただきました。聞いていた生徒たちのまなざしは真剣そのものでした。

職業人講話



＜修学旅行日程＞

1日目…移動、清水寺 2日目…金閣寺、PR活動、自主研修
3日目…奈良公園、大阪道頓堀散策、なんばグランド花月
4日目…USJ 5日目…大阪城、帰校

12月8日(日)から12日(木)までの5日間の日程で、修学旅行が行われ、2学年43名が京都・奈良・大阪を訪れました。初めての飛行機搭乗による不安もありましたが、自主研修やUSJにおいて高校生生活最高の思い出をつくることができました。



2学年修学旅行



12月18日(水)、19日(木)の2日間、球技大会が開催されました。各クラスとも勝利をめざし、一丸となって競技に臨み、級友との絆を確かめました。

球技大会



＜球技大会結果＞

総合優勝…32HR、準優勝…31HR、22HR 3位…21HR
バレーボール競技 優勝 男子 31HR 女子 22HR
バスケットボール競技 優勝 男子 32HR 女子 32HR
バドミントン競技 優勝 32HR



2月3日(月)、大間町の中学生と本校の1・2学年を対象に、進路体験発表会「3年生は語る」が行われました。3年生は進路実現のために頑張ったこと、悩んだことなどを紙芝居を用いて後輩たちに伝えました。下級生はメモをとりながら進路体験談を真剣な表情で聞いていました。



3年生は語る





進路指導部より

△令和二年(二〇二〇年)、

大間町にて▽

進路指導主事
相 内 拓

私の父方の祖父の家が東通村にある。細かく言えば、老部という集落で、読みは「おいっぺ」。アイヌ語由来だろうが、幼少のころより変わった音の地名だと感じていた。集落の中は私と同じ「相内」の名字の家だらけで、親が子を名付ける際は下の名前が人と重ならないように配慮してきたらしい。なお、私の父は八人兄弟の末っ子である。

祖母は私が小学生のころに亡くなったが、十年程前に、私は物置の中から祖父の古いアルバムやノート類を発見した。祖父は明治最後の年(一九一二年)生まれ。寡黙で話しかけづらく、居間の定位置に座りいつもNHKを見ていた。そんな祖父の残した直筆の冊子。表紙には「昭和七年(一九三二年)、熱河省にて」と書かれていた。二十歳の祖父は中国にいた。一九三一年から始まった満州事変の熱河作戦。これを発見したとき、大きな歴史的イベントとの思わぬ出会いが嬉しかった。中身はただの部隊名簿だったが、祖父のメモさに驚いた。

この祖父の晩年の介護をしたのが、私の父の一番上の兄の嫁、私が「おばちゃん」と呼んでいる人である。「おばちゃん」は独身のころ、「サッポロのタマネギ畑」に出稼ぎに行った。一年で東通村二年分稼げるのが、「サッポロのタマネギ畑」。本当に札幌市内かどうかは不明であるが、とにかく若い女性が集団で「タマネギ」に行きたがったという。結婚してから夫婦で「川崎のレンガ工場」に出稼ぎへ。ところが、レンガ工場内の禁煙に耐えられない私の伯父が嫌になって一転、「石川の建設現場」へ。当時は「子どもをババに預けてでも出稼ぎに行く」風潮だったらしい。何だか生き方が荒っぽくて面白い。「出稼ぎに行く際には、むつの近川の駅まで四時間荷物をもって歩いていった」との証言も得られている。タフである。大学時代に読んだ青森の歴史に関する本に「東通村は兵隊と出稼ぎの産地」と書いてあったことを覚えている。私の祖父と「おばちゃん」の話は確かにこれを裏付けた。

さて、大間高校であるが、今年の卒業生の九割は下北を離れる。みんないなくなってしまう、というのが嘘のようだ。保護者をはじめご家族の方はさみしいだろうと思う。私もさみしいと感じる。だが、このような別れは、この地域の常だった。みんな乗り越えてやってきたんだ。クヨクヨせずに、力強く生きるのが下北人らしいんじゃないか。

卒業生の皆が面白い人材になることを夢見る。見た目は変わっても、心は清らか、善きままであってほしい。

令和元年度 進路決定状況

3年生の進路決定状況(2月18日現在)

国 公 立 大	1名
私 立 大	3名
短 期 大 学	2名
専 修 学 校	23名
県 内 就 職	9名
県 外 就 職	5名
公 務 員	5名

	就職希望者	進学希望者	計
合 計	22名	31名	53名
決 定	19名 (※3名受験予定)	29名 (※2名受験中)	48名

就職希望者には公務員及び縁故就職を含む